

6月号でも記事を書いていたいただいた横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課・健康危機管理担当係長五十嵐 吉光先生にお話を伺いました。どろっぷでも梅雨明け頃から週2程度水遊びが始まります。詳しい日程や持ち物は、近日に館内掲示やホームページでご案内させていただきます。「はじめての水遊び」……いろいろ心配なこともあるかもしれませんが、五十嵐先生の記事を読んで、お互い気をつけて楽しく遊びたいですね。



なかなか乾かずにたまっていく洗濯物。ようやく梅雨も終わり、いよいよ夏本番を迎えますね。お子さんにおいては、暑さのぎにプールも利用しますね。ところで、この時期よく耳にする「夏かせ」とは、手足口病・ヘルパンギーナ、そして咽頭結膜熱（プール熱）が代表的な病気です。今回は、プールの利用で感染する可能性がある感染症についてお話いたします。

●夏かせ

かせの原因となるウイルスは、たくさんの種類があり、夏と冬では、その種類が異なります。症状でみると、冬は発熱以外に咳や鼻水を伴いますが、夏では、咳よりもおなかなどに症状が現れ、肺炎や気管支炎になることはまれです。治療ですが、原因ウイルスへの特効薬がなく、発症後は、安静・解熱・脱水予防などの対症療法が中心となります。一般的な予防としては、抵抗力を落とさないことです。暑いからといって、クーラーに頼りすぎたり、夜ふかしのないように、日頃から規則正しい生活を送るようにしましょうね。

●咽頭結膜熱（プール熱）

プールを介して流行することがあるので、プール熱とも呼ばれています。4～5日続く高熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎（目の充血・痛み）の三つの症状が特徴です。アデノウイルスという病原体が、口・鼻の中やのどの粘膜、目の結膜などから体の中に入りこんで感染し、潜伏期間は5日間から10日間です。治った後もウイルスが排出されるので、注意が必要です（発症後、のどからは7～14日間、便からは30日間くらい排出されます）。

●水いぼ（伝染性軟属腫）

原因は、伝染性軟属腫ウイルスで、プールの水から感染する可能性は低いのですが、共用したビート板などの水泳用具や、タオルからうつることがあります。接触でもうつるので、裸でじゃれあうことも原因の一つです。よって、集団生活の場では、治療後でないとプールに入れてもらえないことがあります。治療してから利用したほうが楽しく遊べるかもしれませんね（自分の経験ですが、熱心な水泳教室などでは、水いぼくらいで休ませてくれません。保護者の同意の元、決めていきます）。

治療に関して、専門家でも意見の別れるところですが、痛みが発生するピンセットでの除去（最も簡単）や冷凍凝固。また、時間は掛かりますが、塗り薬など痛みの少ない方法、そしてなにもしない先生もいらっしゃいます。増えたときに、お友達にもうつす可能性があるので、数の少ないうちに除去してもいいかもしれませんね。

最終的には、医師と保護者の考え方で決まります。お友達の親同士や、大人達が十分に話し合っ、責任をもって治療法を選択してあげる必要があります。

プールの感染症の予防方法

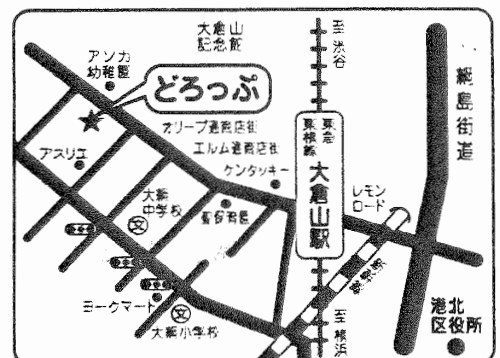
- ・ お友達とは、ハンカチ・タオルを共有しない（個人用の物を、用意しましょう）。
- ・ 前後は、シャワーをよく浴びましょう（水が冷たくても、スリ抜けないように）。
- ・ 高熱・のどの痛み・目の充血等の症状があれば、かかりつけ医を受診しましょう。
- ・ プール熱は、治った後も、ウイルスを排出し続けるので、予防を徹底しましょう。

港北区地域子育て支援拠点「どろっぷ」

【住所】〒222-0037横浜市港北区大倉山3丁目57-3
 【TEL】045-540-7420
 【FAX】045-540-7421
 【URL】http://www.kohoku-drop.com

【開館時間】火曜日～土曜日 9:30～16:00
 【休館日】日曜日・月曜日・祝日・
 年末年始・特別休館日
 【利用料・登録料】無料

*「どろっぷ」は、特定非営利活動法人びーのびーの、
 横浜市港北区から委託して運営しています。



【アクセス】東急東横線大倉山駅徒歩10分
 市バス41系統「観音前」下車
 (各駅停車のみ停車。大倉山駅改札を出て右手、エルム
 通り商店街をお進みください。駐車場はございません。)

